

## 平成24年度第1回 北九州市水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 平成24年8月7日（火） 10:00～11:30

【場 所】 上下水道局大会議室（小倉北区役所庁舎東棟5階）

【委 員】 小畑委員、菊池委員、佐藤委員、宗委員、  
福地委員、柳井委員、吉本委員〔50音順〕

【出席職員】 吉田上下水道局長、田中海外事業下水道担当理事、伊崎海外事業担当部長、  
吉田営業戦略担当部長、松尾給水部長、島津浄水部長、  
柴田危機管理体制強化担当部長、二宮総務課長、佐藤経営企画課長、  
老山海外事業課長、谷収益戦略担当課長、竹下営業課長、藤村計画課長、  
津田配水管理課長、榎田設計課長、古野浄水課長、馬場水質試験所長、  
経営企画課（事務局）

### 《議 題》

- 1 平成23年度上水道事業会計決算見込みについて
- 2 中期（後期）経営計画の進捗管理について
  - ①平成23年度事業の進捗状況
  - ②平成24年度事業の目標設定
- 3 主な事業の取り組み状況について
  - ①危機管理体制の構築
  - ②再生可能エネルギーの活用と節電対策
  - ③配水管更新事業の強化

◇議題 1 平成23年度上水道事業会計決算見込みについて事務局から説明

◆議題 1 平成23年度上水道事業会計決算見込みに関する質疑応答

（委 員）

収益的収支で、営業費用がかなり減ったことが収支差引で大きな黒字を出しているところですが、維持管理費が下がっているのはどのような要因でしょうか。

（事務局）

本市の水源のひとつであるます渕ダムの改修工事を県が行い、年間約2～3億円の工事費を負担していましたが、平成22年度に工事が完了しました。平成23年度はこの工事費の負担がなくなったことが減の大きな要因です。

（委 員）

資本的収支の収入で、企業債以外の収入が減っているのは何ですか。

（事務局）

北部福岡緊急連絡管事業が平成22年度に完了したことによって、事業費が16億円減少しております

て、その財源の補助金3億3千万円、一般会計からの出資金約5億円です。

(委員)

決算対比で維持管理費の減少は、まず渚ダムの関係ということで分かりましたが、維持管理費が予算対比でも3億円減少していますが、そのあたりはどうなのでしょう。

(事務局)

まず渚ダム以外にも遠賀川河口堰等の負担金が7千万円の減少、それ以外に委託料や修繕費といったもろもろで予算に対して約3億円の減少となっています。

◇議題 2 中期(後期)経営計画の進捗管理について事務局から説明

◆議題 2 中期(後期)経営計画の進捗管理に関する質疑応答

①平成23年度事業の進捗状況に関する質疑応答

(委員)

アクアフレッシュ事業についてですが、北九州市と上下水道局の共同実施となっていますが、すみ分けを教えてください。

(事務局)

アクアフレッシュ事業は市内の小中学校202校を対象に実施しています。上下水道局は、おいしい水を飲んでもらうということで、受水槽や高架水槽をなくすための配管工事の工事費を助成をしています。

(委員)

アクアフレッシュ事業で上下水道局の負担は50%程度と聞いていますが、金額についてお聞かせください。

(事務局)

予算でお話をします。上下水道局としては毎年20校予定して、3千5百万円の予算を組んでいます。それに対して教育委員会では同じく20校で約7~8千万円の予算を組んでいます。

(委員)

この事業は子供の健康に直結しますので、是非、推進して頂きたいと思います。

②平成24年度事業の目標設定に関する質疑応答

(委員)

経年劣化の著しい施設の更新についてですが、①前倒しの検討をいつまでにどういうふうにするのか、②見直しの機転となった断水事故の発生がどれほど影響があったのか、③同様の事故が、今のところどの程度発生の可能性が高いのか、緊急性が高いのかの観点から考えをお聞かせください。

(事務局)

前倒しについてですが、老朽管の更新はこれまでも計画的に実施してきました。しかし、相次いで事故が起きたということもありまして早めにとは考えていますが、今現在検討中です。

事故が見直しに与えた影響ですが、市民の方にご迷惑をかける断水の場合、多くの原因が漏水事故です。大きな漏水事故はめったに発生しないものですが、相次いで発生したことに衝撃がありました。同様の事故が起こらないかということですが、必ず起こらないという保証はありませんが、計画的に更新をしてきた結果、最近では昔に比べ漏水事故はぐっと減少しました。また、市民の方にご迷惑をかける

断水を伴う漏水事故も、年間20件程度まで減少しています。  
ただ、この老朽管の更新には終わりがありませんので、最大限取り組んでいきたいと思っています。

(事務局)

見直しの考え方ですが、劣化した管が550km程度残ってしまっていて、これを平成32年度まで今のペースで更新しても90km程度残ります。これを少しでも前倒して無くしていきたいという想定のもとで、大体1割アップを考えています。

(委員)

この間の事故は、影響が大きかったということでしょうか。

(事務局)

2件事故がありまして、直近の事故は3,000戸程度の断水を伴いました。配水管の事故は従来までは200件程度ありましたが、今は年間80件程度に減少しています。断水を伴うこのような大きな事故は年間1件あるかないかです。ただ、1度ありますと影響が大きいですのでこのような事故は少しでも治めていきたいと思っています。

(委員)

非常に重要な事業としますので、積極的に推進して頂きたいと思っています。

(委員)

ボトルドウォーターの備蓄数が、人口数に比べて少ないような気がしますが、これで大丈夫なのでしょうか。それと、給水車は北九州市に何台ありますか。

(事務局)

震度5強の地震が起きた場合に市内で影響を受けると想定されている1,600人分の飲用水と東日本大震災の時に放射能の関係で、乳幼児の飲用に使用するウォーターボトルが不足になった件もありましたので、その数も含め3日間分の飲用水を確保するという考えで計画しています。

(事務局)

1. 5tの給水車2台と車載可能な1tの給水タンク53個を保有していますので、給水車としては55台です。

(委員)

北九州市は地震があまりないということですが、それに甘えて危機管理が疎かにならないようにしてください。予算の関係もあるとは思いますが準備を怠らないようにお願いします。

#### ◇議題 3 主な事業の取組状況について事務局から説明

#### ◆議題 3 主な事業の取組状況に関する質疑応答

##### ①危機管理体制の構築に関する質疑応答

(委員)

今年度上下水道が一体化されましたが、それ以前は上水道、下水道それぞれがマニュアルを作成し、それに基づく実地訓練をしてきたということですが、訓練というのはどの程度の頻度で行われていたのですか。また今後一体化されてからはどのような体制で行っていく予定でしょうか。

(事務局)

これまで上水道については、局全体の訓練、管路施設については東西の工事事務所単位で、それぞれ年1回の事故対応訓練をやってきました。下水道については、雨水による市内の溢水に対する訓練ということで、水防計画に基づき河川部門と連携して、梅雨時期前には必ず訓練を行っているという状況でございます。上下水道一体となつての訓練ということでございますが、今後は上水道、下水道の職員が相互に訓練に参加して、お互いのノウハウを得ながら、一体的に対応できる体制を構築していきたいと考えております

(委員)

一体的に対応できる場所、また別々に対応しなければならないところなどがあると思いますが、折角一緒になられたということですから、別々に対応しなければならないときにも相互に協力できる体制を構築しておけば、よろしいのではないかと思います。

(委員)

給水の件ですが、災害時は避難場所として校区別で市民センターや小学校が前もって決められていますが、ライフラインとして水道は最も重要であるため、断水したときに給水車がどこに来るかを予め示していただくと市民は安心すると思います。

(事務局)

災害時の応急給水の場所についてですが、地域防災計画において指定されている避難場所（公共施設、小学校など）へ給水車等を配置して給水を行うよう考えています

(委員)

私の方からは参考意見と提案という事でお話させていただきます。

一つには、上下水道連携推進プロジェクト会議において積極的に議論を高めて、いいものにしていただきたいという願いがあります。

また提案というのは、この中の人材育成についてですが、中期経営計画の重点施策の事故・災害に強い水道にアセットマネジメントの構築というものがあります。通常アセットマネジメントというのは災害面からは事前対策と理解されている向きがあると思います。しかしながら仙台市の下水道によると、アセットマネジメントを計画した職員が、それに携わることによって人材育成若しくは知識の充実を図られたという報告があります。実際に災害が起きたときに、アセットマネジメントに携わった職員がしっかりと活動でき、情報が頭の中に入っていたということがあり、アセットマネジメントを構築するということは、事前対策ということだけではなく、災害時にも有効だということでした。参考にされてはいかかという提案です。

もう一つは、危機管理計画の策定についてですが、何年か前に北海道のある水道事業体が濁度1万5千度を超えるような原水を引き込んで浄水場の機能不全に陥ったという事例がありました。あのときの団体にも危機管理マニュアルはあったらしいのですが、実際に危機が現実化したときには、あらゆるものがトップに集中し、機能しなくなるということが有り得るということでした。意思決定や報告は必要であります、実務においては、現場の職員、若しくはしかるべき担当部署の責任者に権限委譲を計りながら、全体として機能するようにした方が合理的だということもありましたので参考にしてください。

## ②再生可能エネルギーの活用と節電対策に関する質疑応答

(委員)

これについても、上水道、下水道の連携も発生すると思いますが、先ほどもありましたように組織の効率性や意思決定などを深く連携しながら節電対策などを図っていくということも重要なことだと思います。

(委員)

浄水場へ太陽光発電導入を検討しているということですが、沈殿池にも設置を検討しているということでしょうか。

(事務局)

浄水場につきましては空き用地等を中心に検討しています。また、沈殿地など構造物への設置についても検討中でありまして、費用対効果を検証した上で今後の計画を立てていきたいと考えております。

(委員)

発電量と売電による収入はどのくらいでしょうか。

(事務局)

発電量は、世帯数で申しますと1,800世帯程度を賄えるものでございます。

(事務局)

水力発電の売電収入は平成23年度決算において6,700万円です。太陽光発電については小規模ですので収入としてはあまり大きくないところです。

### ③配水管更新事業の効果に関する質疑応答

(委員)

北九州市の水道管の老朽度は他の自治体と比較してどうなのでしょう。

(事務局)

北九州市の水道は100年の歴史があり、他の政令市と比べて新しいとまでは言えませんが、決して他都市より劣っているということはありません。老朽管の更新については平成12年から計画的にやっておりますが、それ以前についても老朽管についてはその都度更新してきましたので、安心していただきたいと思います。